



佐藤 未雲 さとう みくも

スペースチャイナ

代表取締役

シルバーウィークと呼ばれる今年2度目の大型連休がもつづく始まる。敬老の日にはちなんで、今日は中国語の「老」と「小」についてお話ししたい。

スペースチャイナには二人の王さんがいる。生徒に「王老师」と呼ばれると、二人同時に振り向いてしまうため、「老王老師」と「小王老師」で区別して呼ぶようにした。「老王老師」は40代のベテランで「小王老師」は20代の若い先生である。

「老」にはさまざまな意味があり、その使い方は多様で面白い。一般的には老人、老いているという意味だが、名前の前に付けると年配者に対する敬称や豊かな経験があることを意味する。例えば「老幹部」は経験豊かな指導者のことである。「老朋友」(昔なじみ、親友)のように長年の、古くからのという使い方もある。「老婆」は日本語ではおばあさんという意味だが、中国では奥さんの

南風

老と小

ことをそう呼ぶ。夫に「老婆」と言われても決して怒ってはいけないうい。「老」は歳月の長さを表すと同時にその中で培われてきた豊かな経験やそれに対する敬意、はぐくまれてきた親近感をも表しているのである。

一方「小」は「老」とは対極の意味とイメージを持っている。先の「小王老師」のように若いという意味もあれば、小兔子(うさちゃん)、小胖子(まん丸ちゃん)等是小さくて可愛いのを指す。また、小子(末の息子)という一番下の、末のという意味である。小さな子供に親しみを込めて「小朋友」と大人が呼び掛けたりもする。

思つに「老」も「小」も相手を気遣い思いやる言葉なのではないだろうか。

「小」はいつか「老」になる。豊かな経験を積んで尊敬される「老」になりたいと思つ。同時に謙虚に「老」の経験に学べる「小」でありたいと思つ。